

錆びたカマキリとUのこと

牧師 山本 護

朝の冷気が昼過ぎまで残っていた10月はじめ、集会所の軒下カウンターで、枯れて痩せ細った雄カマキリがゆらゆら揺れていた。産卵するために自分を食べてくれる雌に見つけてもらえないのか。顔を近づけてじっと見つめると、カマキリも首を曲げ、目が合い、心が通じたような気がしました。



正岡子規に「螻蛄や油取らるゝ身の終わり」という句があります。写生の体(てい)で記しながら、病で床から立

ち上がれない己が命の末を見ているのでしょうか。巨匠に触発され、私も「錆びた首曲げて螻蛄さらばといふ」と詠んでみた。すると駄句に引き出されて、かつて共に神学を学んだUのことが思い浮びました。

当時Uとは事ある毎に論争していましたが、互いに対立することで自らの位置と姿勢を確かめていたのかもしれませんが。Uは伝道師(牧師になる前の見習い)になってまもなく重篤な病に罹り、牧会もろくにしないまま召されてしまいました。

「彼(エパフロディト)はひん死の重病にかかりましたが、神は彼を憐れんでくださいました(フィリピ2:27)。「そういうわけで、大急ぎで彼を送ります(派遣の謂)。あなたがたは再会を喜ぶでしょうし、わたしも悲しみが和らぐでしょう(2:28)」。

この時パウロは獄中にあり(1:13~14)、彼の「兄弟、協力者、戦友(2:25)」であるエパフロディトは重病でやむなくフィリピへ戻ることに(派遣)。病のためにろくすっぽ働けず、誇れるような結果は残しませんでした。しかしパウロは「だから、主に結ばれている者として大いに歓迎してください。そして彼のような人々を敬いなさい(2:29)」と語った。

Uはエパフロディトのようではなかったか。英雄的なことや、手柄や、数値に現われる成果ではない神の宣教。神はUを派遣し、教会は派遣された者を歓迎し、敬った。一人ひとり神から託された生を負っている。それらさまざまな生を歓迎し、互いに敬い合う兄弟姉妹でありたい。

「油取らるゝ身の終わり」になり、生涯の最後に自らを差し出しても卵の栄養にならない錆びついたカマキリ。日々、寒さはいよいよ深まり、見つめる私にふり向いてひと言つぶやいた、Uのように。「錆びた首曲げて螻蛄さらばといふ」。Ω